



## しがパピママスクール2020

『しがパピママスクール2020』を8月～11月にかけて全5回で開催しました。男性の家事・育児参画を目的として、「親子遊び講座」や「男性の調理講座」を行いました。第1、2、4回は『マジックパパ』代表の和田のりあきさんを講師にお招きし、高島市働く女性の家、明日都浜大津ふれあいプラザ、彦根市男女共同参画センター「ウィズ」を会場に、「子どもの力がぐんぐん伸びる！親子で楽しむふしぎ遊び」をテーマに親子で楽しみながら育児について学びました。絵本や体を使った親子遊びには、子どもを成長させる要素がいっぱい！パパも育児について納得いっぱい講座となりました。

### 講師からのメッセージ(和田のりあきさん)



2年続けて『しがパピママスクール』の講師を務めさせていただいて実感したことは、子育ての景色は変わったということです。子育て支援活動を始めた10年前は、土日に子育て講座をしても参加されるのは9割がママでした。しかし、この2年間のしがパピママスクールでは参加者の過半数がパパでした。参加されたパパたちは普段から子育てに当たり前のように関わっておられる様子で、パパの子育てが特別でなくなったことを先輩パパとして嬉しく思います。

現在子育て真っ只中のパピママのみなさん、特に乳幼児期から小学校低学年の時期の子育ては本当に手がかかって大変だと思います。でも逆に言えばこの時期に手をかけてやるからこそ、小学校中学年になってから子どもたちは親の手を離れて自立に向かいます。一番手がかかる時期は一番可愛い時期でもあります。ぜひ、この可愛い時期の子育てを楽しんでください。

私の2人の娘は17歳と13歳です。手がかかる時期は過ぎて親に反発ばかりするお年頃です。さっき書いたばかりのことと逆のことを書きますが、この時期の子どももとっても可愛い。つまり我が子はいつまでも可愛いのです。

しかし、子どもはいつか巣立っていきます。家族での生活を夫婦で工夫して乗り越えることが、将来の子どもへの自立につながります。子どもに大人としてのいい見本を見せてやってください。喧嘩しては仲直りする夫婦の関係もその見本の一つです。

マジックパパ代表  
和田のりあきさん

### Profile

主夫、地域ボランティア、保育園園長、NPO法人ファザリング・ジャパン関西理事として合計500回以上の子育て講座、親子レクリエーション活動を行う。「笑うてるパパがええやん！」を合言葉に、楽しく子育てするパパを増やしたいと活動を進めている。



パパの育児参画講座



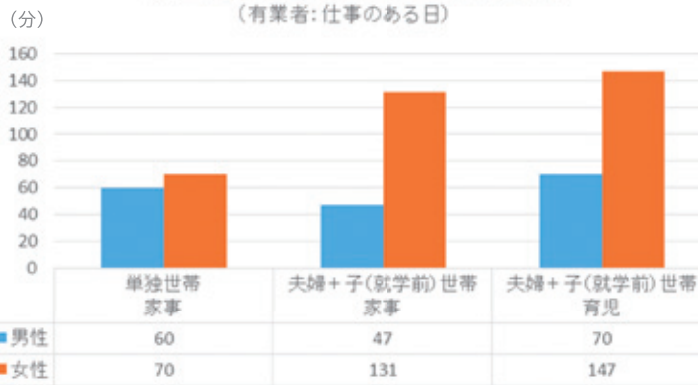
パパと子どもの調理講座



パパの調理講座

結婚後、男女の家事・育児時間には大きな差が生じ、そのことが女性の就業やキャリアアップに影響を与えています。男性が家事育児において主体的な役割を果たしていくことが、ますます重要になっています。

1日当たりの男女の家事・育児時間  
(有業者: 仕事のある日)



令和2年度内閣府男女共同参画白書より

表紙タイトル

**empowerment** :  
(エンパワーメント)

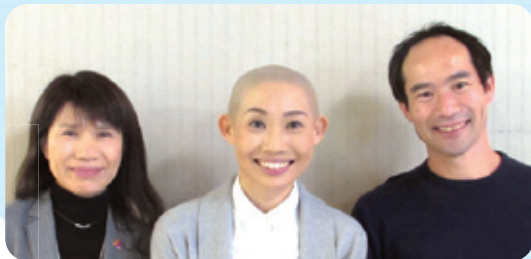
「力をつけること」の意で、一人ひとりが社会の一員としての自覚と能力を高め、政治的、経済的、社会的、文化的に力を持った存在となることをいいます。

しがパピママスクール2020の様子  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5223818.pdf>



## 「笑って わらって わろて 学ぶ」 (G-NETしがフェスタ2020)

11月29日、『G-NETしがフェスタ2020』を開催しました。メインステージでは、露の団姫さんに上方落語、豊来家大治朗さんに太神楽曲芸を披露していただきました。その後、おふたりの「男女共同参画ぶっちゃけ夫婦トーク」では、笑いを交えて、身近な男女共同参画についてたくさんの方に気づかせていただきました。



諏訪所長 露の団姫さん 豊来家大治朗さん



フェスタを盛り上げてくれた、司会の鍵和田さん(左から2番目)と滋賀大学社会教育実習生



ジンケンダーと手話歌シンガーのYokkoさん。歌に合わせて手話を行うことで、人権について考えることができました。



## GUESTにインタビュー

露の団姫さん、豊来家大治朗さん G-NETしが所長にインタビューしました。



### Q1. 日本の男女共同参画が進んだと思われることは

**団姫さん** 学校での男女混合名簿が増えたことです。また、ランドセルの色が好きな色を選べるようになったり、制服のバリエーションを増やす学校が出てきたりしていることです。

**大治朗さん** 昔より男性も家事育児をするのが当たり前の社会になってきていると思います。

**諏訪所長** 少しずつの進歩はあると思うのですが、DVやハラスメント、ケア労働の偏り、賃金格差など固定的性別役割分担意識に起因すると思われる問題がむしろ顕在化しているのではと感じています。

### Q2. 男女共同参画について普段心がけておられることは

**団姫さん** 正しい言葉遣いです。例えば、自身の夫や知人のパートナーに「主人」という言葉を使わないこと。また、「嫁」という言葉も配偶者ではなく子どもの妻を表す言葉なので、適切に使用しながら啓発を進めています。また、地域社会での小さな性差別も見逃さず、性差別をしてい

るとい認識の無い人には丁寧に説明をするよう心掛けています。

**大治朗さん** どんどん新しいことが出てくるので勉強を怠らないように心掛けています。

**諏訪所長** 「個人差は性差を超える。」ものだから、私らしく行こう!

### Q3. 今後の男女共同参画推進に向けて考えておられることは何?

**団姫さん** 男女共同参画を推進することは、社会全体のエンパワーメントにも繋がるため、今後は若年層へのジェンダー教育をすすめていきたいです。

**大治朗さん** もっと男性も生きやすい社会になってほしいです。

**諏訪所長** 私もやっぱり若い人に対するアプローチですね。「自分には性差の固定観念なんてないと思っていたけれど、知らないうちに刷り込みがあったことに気づいた。」という若い人が少なくありません。次代を担う若い人に向けてと、幼少期にかかわる先生方への意識啓発がとても重要なので、センターでもそのあ

たりが強化できたらと思っています。

### Q4. 家庭での男女共同参画を進めるために何から始めるとよいでしょうか

**団姫さん** 結婚後ではなく結婚前に、それぞれの働き方に応じた家事・育児の分担について話し合うことが必要だと思います。また、その時点で話し合いができない人とは共同生活は上手くいかないの、ひとつのバロメーターとしてほしいです。育児に関しては、男性は「参加」という意識をやめることや、父親として主体性を持つことが大切です。

**大治朗さん** 家事・育児を分担すること。何でも良いので出来ることから始めてください。

**諏訪所長** 私も、団姫さんと同じく「まず、話し合う」ことからだと思います。大治朗さんがおっしゃるように、男女共同参画は、決して女性だけの問題ではなく、男性の生きづらさについても一緒に考えていけるものだから。

